

春

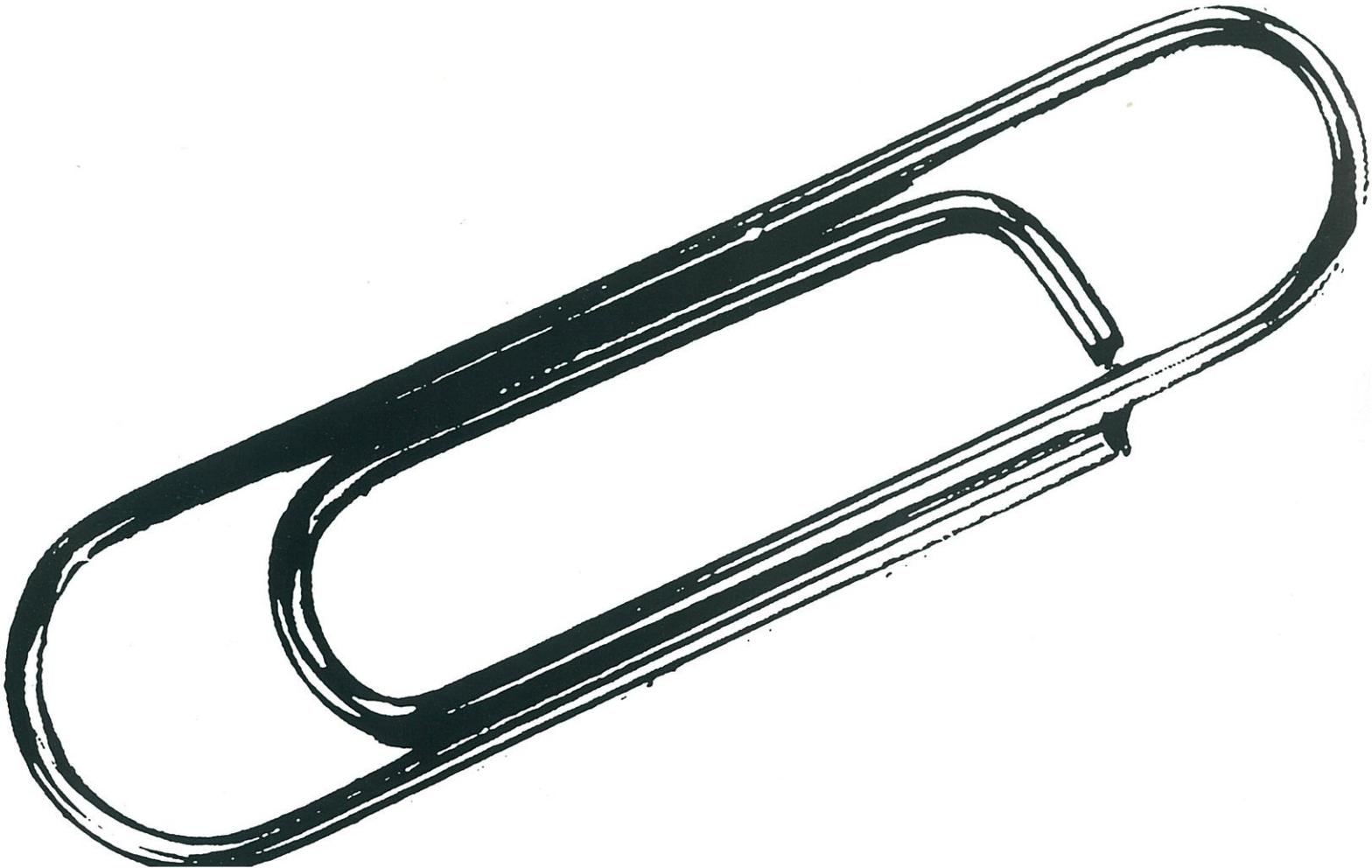
SYUNJUSAI  
熊本県立大学・学報  
1998・3  
VOL.10

秋

■春秋彩とは…

「万葉集」の額田王の春秋を論じた歌の詞書「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。  
「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

彩







# 萌の予感。

moe

学窓には、学びの友の姿が見える。今年もまた、目いっぱい青葉で、友のために安らぎをつくらう。青葉を震るわせて、その勉強に声援をおくろう。そしてこの幹のように健康やかであれと願う。冷たい風が去ってしまし、あたたかい風が吹いてきた。この梢のひとつひとつに、また新たな生命が芽吹いて、もうエネルギーがはち切れそうだ。

# 多事多端だった

## 1997年

本学報「春秋彩」は、1994年  
末の発行以来すでに9号を算  
えていますが、このたび、これま  
でのどちらかというと学内向け  
のどちらかという学内向け  
から、広く学外へも情報を発信  
する本格的PRメディアに脱皮  
することになりました。県立大  
学として、県民の皆さんに、大学  
のやっついていること、大学で起こ  
っていることを、できる限りリ  
交流協定締結 熊本県と  
姉妹関係にある米  
国モンタナ州の、  
州立大学ボーズマ  
ン校およびピリン  
グス校それぞれと、  
2 米国2大学と学生  
取得の途は残ります。

本学との間に、学  
生の相互交流に開  
する協定が結ばれ、

アル・タイムに近く正確に知っ  
ていただいて、その負託に応え  
ようという趣旨であることは、  
いうまでもありません。

そこで、刷新最初の今回は、前  
号を承け、1997(平成9)年  
1年間の大学の動きをまとめて  
ご報告します。キー・ポイントを、  
7大ニュースの形で、継続的に、  
挙げてみましょう。

1 生活科学部の改組構想に  
県からゴー・サイン 共学化と  
生活経営学科の発展的解消(新  
設の総合管理学部への吸収)に  
ともない、かねて懸案であった  
生活科学部の理系色強化・拡充が、  
設置者(県)の全面的な理解と合  
意を得て、本年度から緒に着き  
ました(文部省の認可その他万  
事うまくゆけば、1999年度

9月下旬、学長が現地へ  
赴いて調印しました。早速、この  
2月から具体的プログラムが開  
始されています。

3 創立50周年の祝典挙行  
折しも1997年は、本学が戦  
後いち早く公立の高等教育機関  
として設立されてから半世紀に  
あたりました。これを記念して、  
10月19日、式典と祝宴が催され、  
来し方に想いを馳せるとともに、  
厳しがるべき次の半世紀へ向け  
て大学人としての自覚と決意を  
新たにしました。

4 大学歌「宙へ」を選定 建  
学50年を迎え全学年が共学化さ  
れもしたのを機に、新しい大学  
歌を、との気運が起り、全国に公  
募の結果、数百の応募作品の中  
から宇内悦子さんの歌詞「宙へ」  
が選ばれ、三枝成彰さんに依頼

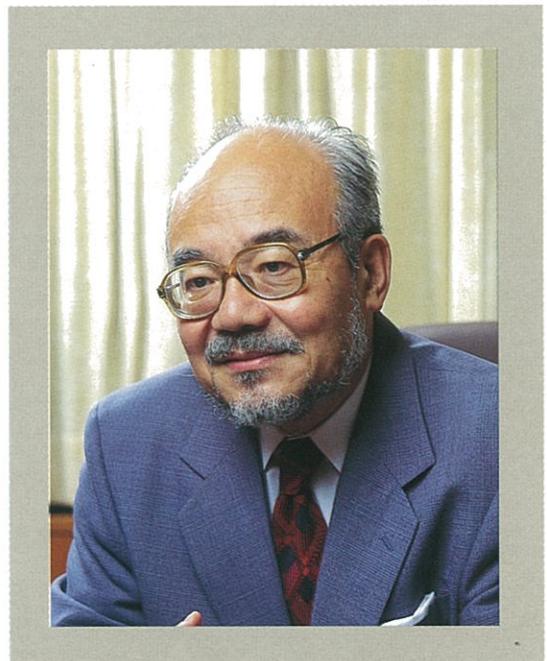
した作曲もできあがった11月4日、  
本学で作曲者自ら振る指揮棒の  
もとに発表会が行われました。

5 大学院アドミニストレー  
ション研究科に認可 1994  
年4月新発足した本学第3の学  
部「総合管理学部」は、1997  
年度で無事最初のワン・サイク  
ル4学年を完了します。6月の  
文部省視学委員による完成年度  
実地視察では、この上ない高い  
講評を得ました。そして、学部完  
成と同時に大学院(修士)課程を  
設置すべく進めてきた作業も実

を結び、12月、「アドミニストレ  
ーション研究科」の名称で大学  
設置審議会の審査にパスし、文  
部大臣の認可が下りました。こ  
の4月から、文学研究科に次ぐ  
本学大学院第2の研究科として  
実働に入ります。

6 就職戦線で健闘 長期化  
する不況に加え1997年度か  
らは新卒者リクルートの規制が  
破棄され就職戦国時代に突入し  
た折も折、わが大学は初の男子  
卒業生、しかも大量の新学部卒  
業生を送り出す廻り合わせとな  
り、就職決定の成り行きが憂慮  
されましたが、幸い、各種公務員  
への新たな進出を含め、これま  
でとかわらぬ、学部によつては  
これまでを上回りすらする成果  
を収めることができました。

7 共学初の卒業生単立つ  
こうして、多事多端のうちにも、  
1998年3月15日、共学とな  
って初めての、しかも従来の特  
を越す数の卒業生たちが、学位  
記を授与されることになりました。  
男女とも、伝統のガウンに身  
を包んで!



熊本県立大学  
学長 手島 孝

1	PROLOGUE 萌の、予感。	
2	学長のことば 多事多端だった1997年	
4	研究内容の紹介 こんな研究、しています。 <small>生活科学部 / 一般教育 梶研究室 総合管理学部 / 米沢研究室・森美智代助教授・D.トムリンソン教授</small>	
8	教員の紹介 我が師 <small>文学部 日本語日文学科 福田益和先生 総合管理学部 総合管理学科 石橋敏郎先生</small>	
9	特集Ⅰ ワタシタチノコト <small>大学歌 / 組織 / 沿革 学部・学科概要 / 施設・設備 / 大学生活</small>	
12	学内に見つけた美 ART IN CAMPUS	
14	特集Ⅱ ワタシタチノコト <small>・50年の歩みを記念して、 ・更なる国際化の充実を目標して。</small>	
16	guidance 学術紀要の紹介 <small>文学部 生活科学部 総合管理学部</small>	
18	学生 の声 VOICE <small>1998年へむけて ハンコク研修旅行を終えて 茶道部 「泉邑」</small>	
20	留学 体験 随筆 <small>ドイツ・ミュンヘンの印象 海外留学を終えて</small>	
21	卒業生から愛をこめて message for you <small>学生時代の思い出と同窓会 「人との関わりを大切に」</small>	
22	CAMPUS-NEWS <small>アドミニストレーション研究科を全国初開設</small>	
24	後援会便り	

私の研究室で、食物栄養学科の学生達が卒業論文の研究のために来るようになって10年余りの年月が経ちます。皆さん女子学生ですが、私の研究室に来たら上品な専門分野は海洋生態学です。干潟に這い蹲って泥掘りをして、生息している生物を調査したり、はたまた船に乗ってタイやハマチの養殖場や冬の荒れた海に出かけて、寒風にさらされながら海底環境の調査を行います。体力的にはかなり

の海底にしか生息しないのか、その理由を見つけていることが1つの研究の目的です。最近になってわかって来たことは、餌が他の多くの生物とは違って、へドロの中で作られる特殊な有機物を食べているらしいということです。私の研究室の水槽の中でこのゴカイを飼っています。餌が食べると普通の餌(有機物)とは違って、硫化水素(火山や温泉のガスの中に含まれる卵の腐ったような臭いのガス)を海水に溶かしてやると、それを泥の中のバクテリアが吸収して有機物を作り、それをゴカイが食べるという仕組みがあることがわかりました。

の食べ物の食育物なのです。イトゴカイがへドロの中で増えるにしたがって、へドロは普通の泥に戻っていきま。そして、イトゴカイが好きな餌が尽きると、今度はこのゴカイも成長できなくな。いつの間にか泥の中にはなくな。今、この性質を使って、湾の奥まった場所海水の入れ替わりが悪く、へドロの溜

大矢野の砂浜でツバサゴカイの棲管を採集したところ



緑川河口の干潟にて、早朝に生物調査を終えて、記念写真。

室では、いかに干潟での生物の生産力が豊富であるかを明らかにすること、そこに棲息する生物達の営みについて基礎的な研究を行っています。す。でも、最近、残念なことが熊本の干潟で起きています。アサリが取れなくなっているのです。20年前は6万トンを超えるアサリが熊本県の干潟で生産されて、全国第1位の生産量を誇っていました。ところが、今は1万トンをはるかに下回る生産量しかありません。なぜ、干潟でアサリが育たなくなつたのか？私の研究室も県の水産研究センターの方々と一緒に調査を行ってきましたが、まだ、その原因がよくわかりません。どのようにしたら干潟のアサリがよみかえるのか？これは干潟の生態系の保全という観点からも重要な問題です。これからさらに研究を続けていって、なんとかアサリを干潟に復活させることに貢献したいと願っています。

# 海の生物の世界を覗いてみませんか。

ハードな作業を伴いますが、それぞれにフィールドワークを結構楽しんでくれているようです。このようにして、毎年5〜6名の4年生が研究スタッフとなつて、さまざまな沿岸の海や干潟をテーマにした研究に取り組んできました。それらの中から2つの研究例を紹介いたします。

1つめはイトゴカイの生態の研究です。このゴカイは非常にユニークなゴカイで、へドロの溜まった海底にしか生息しません。このようなところは生息する生物の数が極端に少ないのですが、棲めば都なのでしょうか。なぜ、へドロ

この性質は非常に大きな利用価値があります。この硫化水素ガスがへドロの中で発生すると、その中の多くの生物を殺してしまします。へドロの中で、その中の有機物を分解する生物がいなくなる。さらにへドロが堆積していきま。ところが、イトゴカイはへドロの上に放すと、イトゴカイの中で発生する硫化水素にも他の生物よりも高いレベルまで耐える術を持つており、へドロをもりもり食べて増えてくれます。実は、へドロは硫化水素の毒に耐えることができれば、海底の泥を食べて生きていく生物にとっては、これ以上ないほどの有機物の豊富な栄養満点

まった場所などで、このゴカイを大量に撒いて、海底を掃除する実験を行っています。このゴカイの力を利用して環境浄化に貢献できることを願ってやみません。

2つめは、干潟の生物の研究です。熊本県には全国の干潟の約22%が広が、もつとも広大な面積の干潟を有しています。熊本で普段何気なく見ている広い干潟は、実は全国的にはあまり見られない風景ではありません。その干潟に生息する生物の量は、沖台の海と比べるとけた違いに豊富です。その豊富な生物の生産力に支えられて漁業が発達し、人々の暮らしも支えられてきました。私の研究

米沢研究室

地域づくりは質の時代に突入しています。ずばりキーワードは「発想の転換」と「人づくり」。加えて、価値観の多様化、地域個性の重視も忘れてはいけません。量的な地域づくりから転換が迫られている熊本県での地域づくりは第二段階を迎えました。

このような状況の中、総合管理学部米沢研究室では、地域社会について、特に熊本県における地域づくりの観点から調査研究を行っています。

# 地域と共に学ぶ。



講義科目は、「地域社会論」のほか「社会の基礎理論」「日本の社会構造」です。「地域社会論」



では、実際に地域づくりに携わっている方々をお招きして、貴重な体験談をお話しいただいています。また、「社会の基礎理論」で

は、社会科学の方法論、とくにマックス・ヴェーバーの理論を学んでいます。

ゼミナールでは年間を通して各自の卒業論文のテーマ研究を行っています。

現在14名の4年ゼミ生は、各自の興味や関心に沿って、テーマを設定し研究に励んでいます。環境行政や公共交通、市町村合併、企業誘致、市町村研究とその内容は多岐に渡っており、地域の実社会に根差したものとなっています。

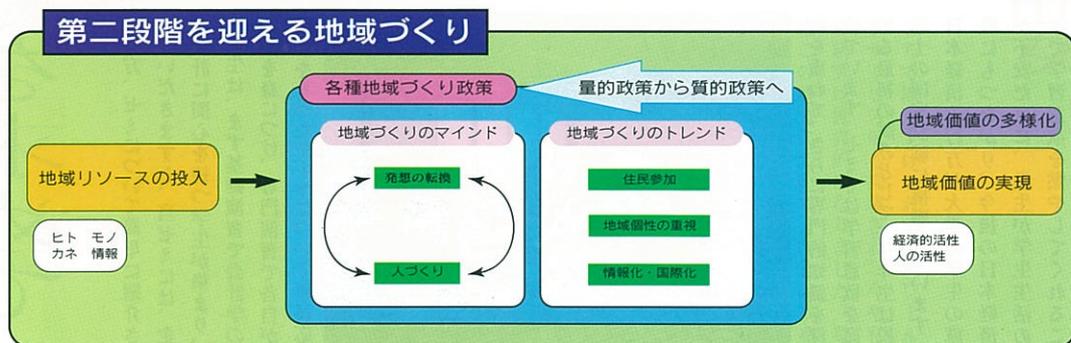
毎年恒例のゼミ研修では天草地



方の地域づくり拠点の視察を行い、牛深ハイヤ大橋を初めとして崎津天主堂、大江天主堂、天草西海岸地域を訪れました。

このように、米沢研究室では教員・学生に関わらず地域づくりについて多彩な研究に取組んでいます。

質の時代を迎える地域づくりでは、一人ひとりが自分たちの地域に関心を持つことが何よりも大切なこととなります。もう一度、自分たちの地域に目を向けることから地域活性化の第一歩がはじまります。



# 国際化における日本企業の在り方を求めて。

森 美智代 助教授

「ご専門は？」と聞かれて、「会計学です」と言った後、どのように説明したらよいか、一瞬言葉が詰まることがあります。そこで、学報への掲載の依頼がきたのをき

つかけに、「何を研究し、ゼミではどのようなことをしているのか」について、この場をお借りして、紹介させていただくことにします。既に新聞、テレビ等でご存じでしょうが、政府は21世紀に向け、経済、行政面において新たな改革に踏み出しています。この傾向は、国際的に見られる傾向であり、この影響を日本も受けているといえるでしょう。バブル経済といわれる数年前の日本経済の最盛期には予想も付

かなかった金融機関と証券会社の破綻、企業の不祥事、それらの監督責任を問われる行政批判を背景に、日本では、「日本版ビッグバン」をスローガンに行政改革と金融改革の二本柱の改革によって、まさに官公庁の組織改革、法制度改革、経済改革が行われようとしています。



これらの改革の一端として、企業会計の見直し、法人税法の改正の検討が行われています。特に、企業会計の国際的な会計制度の見直しは、企業の海外進出にともない、国際的に承認された会計基準が求められている現状に直面しており、1998年をめぐに、

各国が国内の会計規定と国際会計基準との調和に向けて会計制度の見直しを検討しています。しかし各国の会計慣行には、それぞれ異なる社会的文化が関係しており、

会計の国際的調和がなかなか上手く行かないのが現状です。会計の国際的調和の背景には、その国の経済や政治における力関係があるのはいままでもありませんが、各国の慣習あるいは文化が、会計政策という形で、伝統的に各国の国内の会計基準および法制度に内在している

点に上手く行かない原因があるようです。つまり、各国の会計政策が、国内の会計と会計基準との国際的調和の障害となつていきます。今後市場での競争は一層激しくなることが予想されます。そして、市場における自由競争によって企業は淘汰されて行くでしょう。激しい

市場経済競争の中で、ドイツは失業の最高記録を年々更新しています。が、他方では、いまだにドイツの自動車産業、化学薬品工業、金融機関は強く、これらの業種は、今後の市場経済競争においても注目される産業であります。

ドイツと類似した大陸法の法体系の一面をもつ日本にとつて、実務に内在している企業の会計政策を探求することは、ドイツ企業の特質を知る上でも重要であり、最近ドイツ企業には、従来の企業の節税対策の会計政策だけではなく、環境会計を含め新しい会計政策が見受けられます。その意味で、日本の企業にとつても、ドイツ企業の会計政策は、興味深い問題を提供してくれそうです。現在の研究は、「会計政策のマクロ的、かつミクロ的分析」です。この二つの分析から制度の設定過程に与える政策的影響力と自動車産業、化学薬品工業、金融機関における会計政策の日独比較をととして、日本企業の今後の在り方を検討しなければならぬ

と考えています。これまでのドイツ会計制度、理論および実務の分析の研究(写真)を基礎に、現在は会計政策の日独比較を行つています。

一方、ゼミについて簡単に紹介させていただきますと、当ゼミには、企業会計に関心を持つ学生が集まり、ゼミ生は、まず基礎演習で会計学の知識を身につけ、専門演習で各自が関心をもったテーマについて質疑応

答を重ねて、さらに専門的知識を深めています。ゼミでは学習意欲を高める最初の試みとして、3年生は税理士の国家試験に挑戦しています。日本経済の行方が大学の学生の就職にもつながり、今後の日本経済が不安だけに、学生が学生生活の中で学習意欲を燃やしてくれることを願う昨今です。



# 語学に文法教育は必要。

D. トムリンソン 教授



英語の文法教育はここ数年世界中で攻撃されています。英文学や教育学部の古参の教授達の科学的な研究によると、文法教育は語学能力向上に役に立たないそうで、す。しかしこれは一般常識とは正反対になっています。どんな技術においても、どのように機能するのかを知らずにうまくすることはできませんし、語学学習も例外ではないはずです。ある外国語に堪能になりたいと思えば、確かにその文法を学ぶ必要があるのです。つまり読んだり聞いたりだけでは文法規則を十分に理解することはできません。もしできるのならイギリスやアメリカの大学生はみんな

な第一外国語の模範的な話し手ということになってしまいますが、そうではないことが多いのです。

15年ほど前ロンドンで、文法教育についてとても細かく書かれた小冊子が先生用に作られました。私はその内容がおかしいと思い、大学図書館へ通つて自分で調べてみました。驚いたことに、この分野の研究はほとんどなされていませんでした。あつたのは修士号や博士号の論文程度のものでした。初めは論文の中にある統計のページにとっても感銘を受けましたが、次第にその実験の前提自体が間違つていて、そのため実験に基づいて導き出された結論は正しくないということに私は気付きました。

できた教授達は喝を入れられなくてはなりません。

最近私は語学教育についての無意味な研究書や論文をたどり、追いつめることを始めました。これらのせいで世界中の教育学部の間違った聖典ができてしまったのです。この研究は1キロ以内に5つもある大きな図書館があるロンドンで行つていきます。アメリカのイリノイ州・ウルバナー・シャンペーンにある大きな大学にコピーを依頼しなければならぬ場合もありました。

こちらで取り上げられ、BBCワールドサービスにも掲載され、今や私の研究は世界的になりました。私はこの研究について、自分の本を作らなくてはなりません。

さらに私は新しく発見したことについても論文を書いたり、学会発表を行つたりしてきました。最近では英国ブライトンで行われたLATEFL学会で発表し、好評を博しました。今年発行された書籍の中で最も偉大な本はたぶん、Faber社から出されたジョン・ハニー氏のLanguage is Powerだと思われませんが、この本では5ページにもわたつて私の研究について書かれています。熊本県立大学も言及されています。この本はあち

## 文学部

### 日本語日本文学科

福田 益和 先生

日本語学 研究室4年  
野村 秀代

先生はとても真面目な方です。学問に  
関しては特に、だと思えます。こういう  
のを例に挙げるのはあまり良くないかも  
しれませんが、授業を例にとってみても  
さほど脱線をするともなく、90分間め  
いつばい活用されるのです。残り時間が  
5分を切つていても、教科書が切りの良  
い所で終わつても、終了のチャイムが鳴  
るまで、先生は力を抜かれませぬ。そ  
して、90分間こちらも精一杯耳を傾け、  
精神を集中して聞いていないと、すぐに  
置いていかれてしまうほど、その内容は  
濃いのです。今、私達には先生の授業は週  
に1時間しかありませんが、とても授業  
を受けた、という充実感の得られる授  
業だと言えらると思えます。そして内容  
が濃いからこそ、先生がたまに述べら  
れるおもしろい事は、はまる人にはは  
まります。そのギャップが大きいので、  
私ははまる方です。皆さんもぜひ一度  
聞いてみられてはいかがでしょう。

授業中の先生は、とても真面目とい



う印象があるのですが、普段はとても  
優しい先生です。うちの研究生でも、  
なかなか、大学に来ない人がいて、そ  
れを皆以上に心配して下さいます。毎  
年、あまり大学に来ない学生にはわざ  
わざその学生の家に電話をかけておら  
れるそうです。今年もこの分だと、先  
生からかかってくる人がいそうです。  
あまり先生を心配させないように気を  
付けなければなりません。

あと、先生はとてもお酒が好きです。  
でも最近少し体調を崩されて、あまり  
飲めないそうです。少し前にうちの研  
究生で先生のお宅にお邪魔して、すき  
焼きパーティーをしたのですが、その時  
にもビール一杯飲んだきりで、あとは皆  
が飲むのを、うらやましそうに見てお  
られました。せつかく研究室にも男子学  
生が入つてきて、飲み相手も増えたと思  
つたのに、飲めないなんて、とてもお氣  
の毒です。でも体の事を考えると、仕方  
ないなと思えます。その分、たくさん食  
べたり、いろいろ話をしたりして、楽し  
く飲めるようにしようと思つています。

又、先生はカラオケも好きです。中  
も十八番は「骨まで愛して」です。カラ  
オケに行く、始めは私達学生が歌うの  
を聴いておられて、一通り私達が歌つた  
後で、歌つて下さいます。とても気分良  
く歌われるので、なかなか味わい深い  
ものがあります。最近はずいぶん、飲み  
会もカラオケにも行けません、卒論  
が終わった頃には、又先生の自慢のの  
どを披露していただきたいと思えます。

## 総合管理学科

### 総合管理学科

石橋 敏郎 先生

福祉行政論 研究室3年  
田代 絹代



今回、文章と写真が掲載されるとい  
うことで、3年である私に話がきまし  
た。なぜ私なのかと理由を先生に聞い  
たところ「お前を載せれば、ゼミ生の  
選抜方法が顔じやないことがわかるだ  
ろう。」と言われてしまいました。この  
ように何でも言いあえる石橋先生のゼ  
ミの特徴を、私なりに述べたいと思  
います。

石橋ゼミの特徴は、何と言つても飲  
み会が多いことです。クリスマスなど  
イベントに託つてする以外に、スキ  
ヤキやナベパーティーと頻繁に行われ  
ます。買い物袋を下げていけると他の先  
生から「また、飲み会ですか」と言われ  
るくらいです。さらに先生、学生を問  
わず、石橋先生の飲みすぎを心配する  
声もよく聞きます。クリスマスパーテ  
ィーでは食べきれないほどの食べ物を  
前に、ゼミ生みんなが苦しみながらも  
食べました他ゼミとの合同コンパでは、  
他の先生方のお酒の席でしか見れない  
本当の姿を見ることができました。

合宿は年に2回以上あります。夏に  
は相良村で社会人の方で行いました。  
昼は勉強会。夕食は料理長が腕に縋り  
をかけて料亭なみの料理をつくつてく  
れました。その後は花火大会、ゲーム、  
飲み会で夜遅くまで騒ぎました。2年  
生のときは熊本大学との合同合宿を2  
泊3日で行いました。このときも昼は  
勉強、夜は飲み会と、石橋ゼミの特徴  
が発揮されていました。このように学  
外にも数々の出会いがあるので、いい

人が見つかるかもしれません・・・。  
ここで石橋ゼミの真面目なところも  
紹介しておかなければなりません。第  
2の特徴は、先生の数多い講演会につ  
いて行けることです。そこでは講演を  
聞くことはもちろん、社会人の方との  
接触も勉強になります。苦労話ややり  
がいなど生の声を聞くことができ、ま  
た社会が抱えている問題などを考える  
機会にもなりとても有益です。

現在3年生は「熊本県天草町の高齡  
者福祉対策について」天草町と2回目  
の共同研究をしています。1回目は1  
991年に行われました。今回は介護  
保険の導入など社会状況の変化に対応  
させた、今後の天草町の対策の在り方  
を提案しなくてはなりません。  
このように遊びと勉強の両立してい  
る充実しているゼミです。とくに様々  
な人と出会えるゼミということを強調  
しておきたいと思えます。

idea 理念

### 1. 総合性への志向

本学は、人文・社会・自然の学問の三分野をおおう総合的な大学として、学際的な方法による総合的な知識の形成と学問の創造を目指す。

### 2. 地域性の重視

本学は、〈地方の時代〉とも言われる現状において、地域の社会と住民に開かれたものになること、地域社会が当面する諸問題を分析し解決すること、地域の文化の創造の一機関となること、を目指す。

### 3. 国際性の推進

本学は、〈国際化〉の時代に対応して、西欧の文化とともにアジアやわが国の文化を学びながら、世界の人々との交流をすすめる、国際的・多元的な文化の創造を目指す。

# 宙へ

山脈を覆う 雲はながれ  
みどりの裾野 姿現す  
高く碧い 宙に向ける  
きみの瞳 希望に満ちて  
友よ 精神に 不知火を  
赤く 消えない 不知火を抱こう  
共に学ぶ よろこびに  
燃えている いま

力奮めて 冬を越して  
けやきは宙へ 梢を伸ばす  
胸の奥で 今廓る  
きみの思い 若さに満ちて  
友よ 確かな 耳で聞き  
真実 見分ける 目を持ちこ  
答え探し かざらずに  
語り合う いま

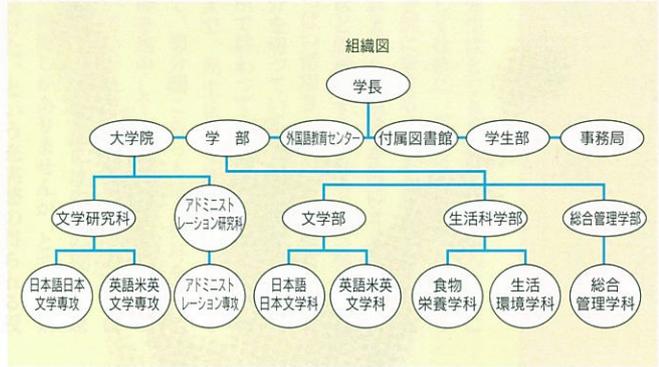
宙へ伸ばす 若い理想は  
知識の泉 世界をつなぐ  
いまを生きて 前に進む  
きみの笑顔 自信に満ちて  
友よ 遥かに 目指すもの  
秘めて 光の 中にゆこう  
明日の扉 押し開き  
飛躍する いま

作詞者 宇内悦子  
作曲家 三枝成彰



## 組織

## FACULTIES



## 沿革

## HISTORY

- 昭和22年3月 熊本県立女子専門学校設置
- 昭和24年4月 熊本女子大学設置
- 昭和25年5月 熊本市大江町渡鹿へ学舎移転
- 昭和26年2月 教職課程認定
- 昭和28年4月 学部学科名称変更
- 昭和35年4月 文家政学部/文学科(国文学専攻、英文学専攻)、家政学科、文学科改組
- 昭和38年4月 文学科
- 昭和55年3月 熊本市健甕町(現在地)へ学舎移転
- 昭和55年4月 学部学科を改組
- 昭和59年4月 文学部/国文学科、英文学専攻、生活科学部/食物栄養学科、生活環境学科、生活経営学科(HO.4募集停止)
- 平成3年4月 外国語教育センター設置
- 平成5年4月 大学院設置
- 平成6年4月 文学研究科/日本語日本文学専攻修士課程
- 平成6年4月 英語英米文学専攻 修士課程
- 平成6年4月 大学名称を熊本県立大学に変更
- 平成6年4月 総合管理学部を増設(総合管理学科)
- 平成6年4月 文学部学科名称を変更
- 平成6年4月 国文学科→日本語日本文学専攻
- 平成6年4月 英文学専攻→英語英米文学専攻
- 平成6年4月 全学的に男女共学に移行
- 平成9年10月 開学50周年記念式典

## 学部学科概要

## FACULTY-COURSE OF STUDY



### 文学部

「人間」とその生き方を考える学部、とも言える文学部。言語や文学という形で表現されるのは、生活・文化・社会・歴史そして精神構造にまで及びます。ここで物事の本質を見る目を養ってください。

人間は、言葉でものを考えて表現し伝えます。言語を、また文学を学ぶことは考える方法を学ぶこと、そして表現する方法を学ぶことです。

日本語日本文学専攻では、日本語の音韻、文法、語彙などについて、日本語の歴史と構造を研究します。また、それぞれの時代をものがたる文学作品を研究することで、日本の心を探ります。英語英文学科の研究分野は、英語学、英文学、米文学。また、国際社会の中で、実際に文学・政治・経済などについての議論ができるという高いレベル

を目指し、本格的な「英語運用能力」すなわち英語を読む・聞く・話す・書くの四つの基本能力の開発に重点を置いていきます。

なお、文学部には副専攻課程として、日本語教師を養成する「日本語教育課程」があります。

(日本語日本文学専攻)  
(英語英米文学専攻)

### 生活科学部

人間の「生活」の基本部分、「衣」「食」「住」を科学的に学問・研究するユニークな学部です。それらの研究を通して人間の機能や現代社会、日本と世界の生活文化にまで視野を広げます。

食物栄養学科では、理論だけでなく実験実習を組み合わせたカリキュラムにより実際の知識・技術を身につけます。研究するのは「食物」素材の性質や加工法など。そして、食物の体内での役割を知る「栄養」に関してです。生活環境学科は、住居学コースと被服学コースに分かれます。

前者は、人間が住みやすい住環境の創造と設計の能力を養うコースです。都市・農村・地域計画から住宅計画、さらに福祉住環境のあり方など、「住」に関する様々な側面を学んでいきます。後者は、生活文化の象徴・被服を材料・機能の両面から実験・研究し、新たな被服文化の創造を図ります。

(食物栄養学科)  
(生活環境学科)

### 総合管理学部

日本及び世界は、国際化・情報化社会として多様化・複雑化しています。そのような時代のニーズに応え、広い視野で法律・経済・行政・経営・情報など、様々な分野の問題を総合的に判断し、スムーズに現代社会のビジネスや組織を管理していくために学ぶアドミニストレーション学、それが総合管

理学部の分野です。経営マインドと公共精神を併せ持つバランスのとれた人材を養成するのが本学部の目的です。

専門科目は、アドミニストレーションを系統立てて段階的に学べるように基礎科目群・基幹科目群・展開科目群及び演習に分かれています。展開科目群では、自分の知的感性に応じてさらに三つの科目の中から選択します。行政の政策立案・管理などを想定した行政関係科目、企業の経営戦略の作成まで行う経営関係科目、そして情報関係科目があります。特に、英語教育は国際コミュニケーションを目的として実践的な教育を行っています。

(総合管理学科)

### 大学院・文学研究科

文学研究科(修士課程)には、日本語日本文学専攻と英語英米文学専攻の二専攻が設置されています。大学の四年間で学んだ専門分野に関して「さらに究めていきたい。もっと多くの言葉を知り、その本質を探り、もっと文学を学んでいきたい」という高度な知的欲求に応えるべく設置されているものです。

### 大学院・アドミニストレーション研究科

平成6年4月に開設した総合管理学部を基礎として、平成10年4月全国で最初のアドミニストレーション研究科(修士課程)が設置されます。アドミニストレーション研究科の人材育成の目標は、高度の学際的知識を習得した専門的職業人の養成です。また、実際に行政活動と企業経営に携わっている社会人が、新たな学際知識を習得できるように昼夜開講制を実施します。さらに、わが国で初めてのアドミニストレーション研究科として、学術研究者の養成も行います。

# 施設・設備

## INSTITUTION-EQUIPMENT



- ① 正門
- ② 駐車場
- ③ 第1クラブ室
- ④ 管理棟
- ⑤ 講堂兼講義室
- ⑥ 第1学生会館
- ⑦ 第1体育館
- ⑧ 第2体育館
- ⑨ プール
- ⑩ 第2学生会館
- ⑪ キャンパスプラザ
- ⑫ アカデミックプラザ
- ⑬ 講義棟
- ⑭ 生活科学部棟・学生実験実習棟
- ⑮ 動物実験室
- ⑯ 第1グラウンド
- ⑰ 研究所棟
- ⑱ 文学部棟
- ⑲ 外国語教育センター
- ⑳ 西門
- ㉑ 附属図書館
- ㉒ 新講義棟
- ㉓ 大講義棟
- ㉔ 総合管理学部棟
- ㉕ テニスコート
- ㉖ 第2クラブ室

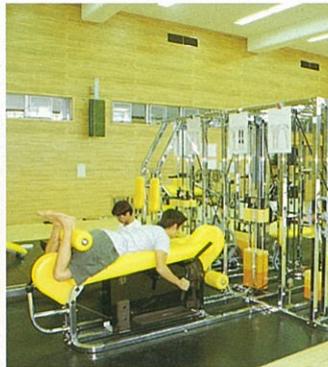
■第2グラウンド・第3クラブ室  
(熊本市小峯3丁目)  
施設 野球場・サッカー場・ラグビー場・陸上競技場



④ 附属図書館



⑯ 外国語教育センター



⑧ 第2体育館



⑩ 第2学生会館 (学食)



総合管理部棟1階には情報処理実習室が3室あり、合計177台のパソコンが学生に開放されています。インターネットや電子メールなどの利用が活発です。他にも誌面で紹介できない程の、いろいろな魅力的施設・設備がキャンパスにあふれています。

体育館については、学部新設・男女共学への移行にともない、これまでの第1体育館に加え、さらに心身ともに健康な人間育成を目指して、屋外プールを備えた第2体育館を新設しました。

第2学生会館にある学食は一面のガラスから庭を眺めることのできるオシャレな2階建てです。

熊本県立大学は、白亜の校舎と緑の並木道で構成された、明るくてのびのびしたキャンパスです。

付属図書館は、蔵書冊数約20万2千冊(平成9年3月現在)。図書収容能力41万冊。近代建築の粋をこらした4階建て。学内にありながら、他大学の蔵書に関しても館内で検索できるシステムをとり入れています。

外国語教育センターは、真の国際人の育成を図るべく開設されました。一般県民に向けても門戸を開放し、活動の内容は広がっていきはかりです。



体育系では、サッカー・バスケット・野球など全部で30のクラブ。文化系では、美術・書道・華道など全部で25のクラブがあり、各々人気と実力を発揮しています。

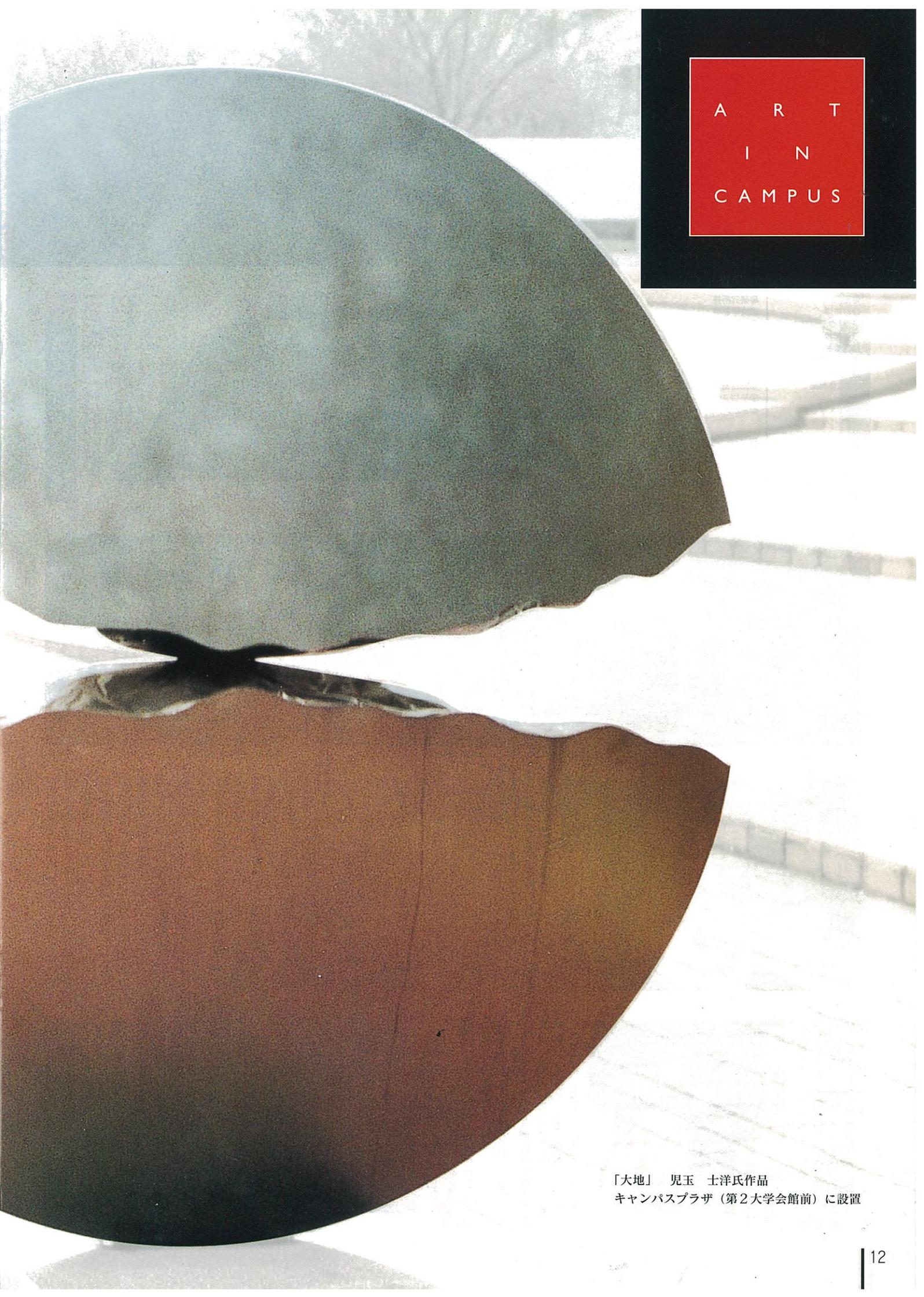
■クラブ・サークル  
共学化以来、サークル創部が相次ぎ、既存サークルの活動も活発となっています。自主的な運営や、先輩・後輩・友人との交流を通じた、人間形成の場でもあります。



白亜祭

■行事・イベント  
4月―入学式、新入生オリエンテーション。5月―開学記念日。11月―学園祭(白亜祭)。3月―卒業式。他にも各講演会・体育祭・インカレ・県内留学生との交流会など、学生生活を数倍楽しめる行事が目白押しです。

## 大学生活 COLLEGE LIFE



A R T  
I N  
C A M P U S

「大地」 児玉 士洋氏作品  
キャンパスプラザ（第2大会館前）に設置



INCIDENT



**10日入学式**  
10月11日 新入生オリエンテーション  
14日 授業開始  
上旬 求人票発送

28日 2日 開学記念日  
名譽教授称号授与式

19日 入試概要公表  
21日 30日 祥明大学短期研修団来学  
下旬 7月中旬 インカレ(テニス他)

11日 夏期休業(総合管理学部以外)  
(9月7日)  
24日 31日 前期試験(総合管理学部)

1日 夏期休業(総合管理学部)  
(9月30日)  
4日 大学説明会(高校教員向)  
**10日 オープンキャンパス**  
11日 15日 中高英語教員向夏期講座  
18日 授業公開講座(社会人受講者募集)  
(9月3日)

8日 授業再開  
23日 学生交流協定調印式  
(モンタナ州立大学  
ボーズマン校)  
(総合管理学部以外)  
24日 30日 前期試験  
(総合管理学部以外)  
25日 学生交流協定調印式  
(モンタナ州立大学  
ヒリングス校)  
29日 スポーツ教室  
社会人受講者募集  
(10月13日)

9月

8月

7月

6月

5月

4月



50年の歩みを記念して。

開学50周年記念事業について

平成9年は熊本県立大学が開学して50周年を迎えた記念すべき年です。

この間、本学は、「沿革」にあるとおり発展し、8400名余りの卒業生を社会に送り出してきました。平成10年の4月には大学院アドミニストレーション研究科も設置され、ますます未来へと大きく羽ばたいていこうとしています。

このような中、大学、後援会、及び同窓会「葉苑会」の三者で開学50周年記念事業実行委員会を組織し、以下のような事業を行っています。

1 大学歌の制定

21世紀をつくる、新しい人材を育成する大学にふさわしい、若い人にも親しめる大学歌を作ろうということで、歌詞を公募したところ、213件の応募があり、その中から、千葉県在住の宇内悦子氏の「宙へ」が最優秀作品として選ばれました。

作曲は、作曲家の三枝成彰氏に依頼しました。三枝氏は、数々の賞を受賞され、また、映画やテレビドラマの作曲も数多く手がけられているので存じの方も多いのではないのでしょうか。

新しく作られた大学歌は、昨年10月19日に行われた開学50周年記念式典と祝賀会において、披露されました。

また、昨年11月4日には、作詞者の宇内悦子氏と作曲者の三枝成彰氏が来学され、本学合唱部及び吹奏楽部によるお披露目も行われました。そのお披露目に先立ち、三枝氏の熱いこもった指導が行われ、合唱部、吹奏楽部はその指導のもとに、練習に励んでいます。

なお、この大学歌「宙へ」を皆さんに親しんでもらうため、CDを作成しました。

2 50年誌の発行

本学の50年の歩みを記した、50年誌を発行します。写真を多く用い、座談会を行ったりして本学の50年を振り返ります。

3 記念式典及び記念祝賀会の開催

開学50周年を記念して、昨年10月19日に記念式典、記念祝賀会が開催されました。記念式典は本学の大講義室で行われ、学内外から約30名の出席がありました。その後、熊本テルサに場所を移して、引き続き行われた記念祝賀会も、約350名の出席者がありました。

この記念式典・記念祝賀会には、本学と姉妹提携を行っている韓国の祥明大学校の万貞福総長、及び昨年9月に本学と学生交流協定を締結したモンタナ州立大学ヒリングス校のロナルド・サクストン学長が出席され、両者には記念祝賀会において祝辞を賜ることができました。



4 記念碑の建立

本学内(西門そば)に北村初代学長の胸像が建立されました。また、本学は昭和55年に熊本市大江から現在地に移転しましたが、当地に学舎があったことを記すため、学舎が存した現県立劇場敷地内に記念碑を建立しました。



1日 後期開始  
2日 就職ガイダンス  
15日 大学院文学研究科前期試験  
19日 開学50周年記念式典・祝賀会

### 8・9日 白亜祭

13日 県内企業との意見交換会  
16日 インカレ(サッカ―)  
18日 公開講演会(講師・山井和昭氏)  
28日 マスコミセセミナー

7日 特別選抜試験  
11日 地域講演会(城南町会場)  
12日 地域講演会(七城町会場)  
18日 大学院アドミニストレーション  
24日 冬季休業(1月11日)

9日 大学院アドミニストレーション  
12日 研究科説明会  
16日 自宅学習(センター試験準備)  
17・18日 センター試験

3・13日 後期試験  
14・15日 アジアネットワーク  
16日 公開講演会(講師・八島雅男氏・フォーラム)  
16・17日 就職セミナー1週間  
17日 私立外国人留学生試験  
17日 大学院文学研究科後期試験  
18日 地域講演会(田浦町会場)  
21日 大学院アドミニストレーション  
23日 授業公開講座(社会人受講者募集)(3月10日)  
25日 前期入学試験

12日 後期入学試験  
15日 卒業式  
25日 春季休業

### 10月

### 11月

### 12月

### 1月

### 2月

### 3月

# 更なる国際化の充実を目指して。

## モンタナ州立大学と学生交流協定締結

本学は、学生の留学の機会を更に広げ、本学の国際化を一層推進するため、平成9年9月にアメリカ合衆国モンタナ州立大学ボーズマン校及びビルングス校と学生交流協定を締結しました。

本学では、大学の理念の一つに「国際化」を掲げ、これまで韓国・祥明大学校と姉妹提携を結び、短期留学生の相互派遣や日本語教育実習団の派遣及び日本語研修団の受入を行ってきました。

ここ数年、学生の留学希望者が増え、留学に関する問い合わせや、留学のための休学者が増え、中でも特に英語圏への留学及び語学研修に対する要望が非常に大きく、学生の留学制度の整備・充実の一環として、交流先の検討を進めてきました。

今回学生交流協定を締結したモンタナ州立大学は、熊本県が姉妹提携を締結しているモンタナ州にあり、海外の大学との交流経験も豊富な大学であり、今後、学生の短期相互派



ビルングス校との協定調印式 (H9.9.25)

遣や語学研修の派遣を行っていきます。協定調印式は、手島学長が訪米し、各大学のキャンパスにおいて行われました。

特に、ビルングス校においては、本学との交流協定の締結が、大学の歴史上初めてのことであり、地元テレビ局や新聞社が取材し、大きく取り上げられ、大変盛大なものでした。

ビルングス校サクストン学長来学  
モンタナ州立大学ビルングス校サクストン学長は、10月19日に行われた開学50周年記念式典に出席するため、本学を訪問されました。サクストン学長は同記念祝賀会において、「学生交流プログラムにより、学生は学術的・社会的・文化的に貴重な経験をすることになり、モンタナと熊本の人々、そして、モンタナ州立大学と熊本県立大学の間で、永永い協力関係が生まれるでしょう。」と挨拶されました。

短期学生相互派遣  
平成10年度から、単位互換及び授業料相互不徴収からなる1年間の短期留学生相互派遣を行います。派遣留学生の選抜は、面接やTOEFL試験等により行います。

モンタナ州立大学語学・スキー研修  
今回の学生交流協定締結に基づき、平成10年2月17日～3月11日まで、ボーズマン校で語学・スキー研修を実施しました。この研修プログラムは、モンタナ州立大学ボーズマン校国際教育センターの専門スタッフが本学学生のために特別に作成したもので、同センターが学生交流協定に基づき運営するものです。英語授業、アメリカ文化に関するセミナー、そして会話英語に重点を置いたスキー教室から成り立ち、午前中は英語の授業、午後にはスキー、文化活動、セミナー等が行われました。

第1回目の研修には、各学部から学生24人が参加しました。英語力の向上や、国際的感覚を身につけ異文化理解を深めたい学生、英語のコミュニケーション能力アップさせたい学生や、米国学生と交流を深めたい学生にとつては大変有意義な研修であります。



モンタナ州立大学ボーズマン校

### モンタナ州立大学ボーズマン校概要

設立 1893年  
キャンパス面積 1,170エーカー(約47.4万㎡)  
学生数 約11,267人  
学生構成 男性56% 女性44%  
授業形態 セメスター制  
学部・学科 文理学部、ビジネス学部、教育及び人間学部、農学部、芸術及び建築学部、技術学部、看護学部

### モンタナ州立大学ビルングス校概要

設立 1927年  
キャンパス面積 92エーカー(約38万㎡)  
学生数 4,206人  
学生構成 男性37% 女性63%  
授業形態 セメスター制  
学部・学科 文理学部、ビジネス学部、教育及び人間サービス学部

ISSN 1341-1241

熊本県立大学

文学部紀要

第3巻(通巻49巻)

1997年3月

- ロラン・バルトの俳句と恋愛のディスクール……………元吉 瑞枝…( 1)
- エメ・ゼール論Ⅱ……………砂野 幸稔…( 23)
- ラジオ放送からみた1956年ハンガリー動乱……………星乃 治彦…( 57)
- なぜ「射」た?は「居」た?に化けないか……………馬場 良二…( 87)
- 熊本県立大学学部留学生の日本語に関するニーズ調査……………梅田千砂子…(101)
- 「風が吹く」考  
—マンズフィールド文学の転機……………平戸 喜文…(117)
- 意味と「連行性」……………三木 悦三…(127)
- 「太上大道玉清經」の思想……………山田 俊…(180)
- 朗読研究会と朗読論……………小樫万津男…(198)
- 三島紀夫「金閣寺」の世界(二)  
—第二章・第三章の構造—……………竹原 崇雄…(228)

熊本県立大学

ISSN 1341-1241

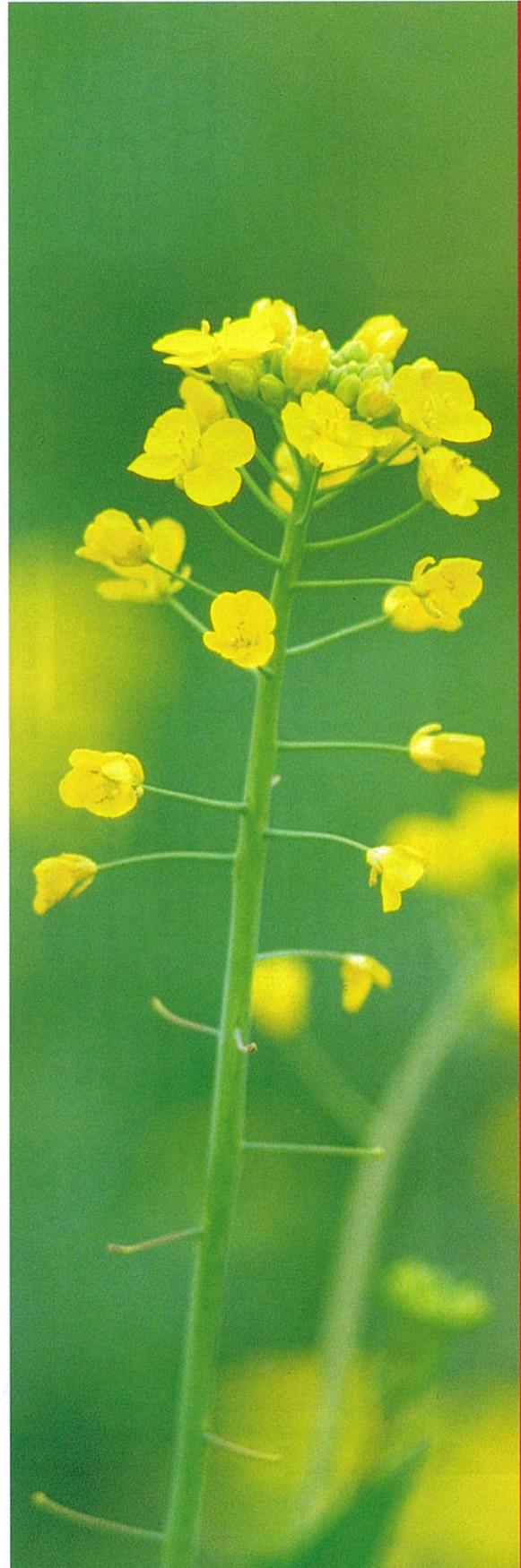
Journal of  
The Faculty of Letters  
Prefectural University of Kumamoto

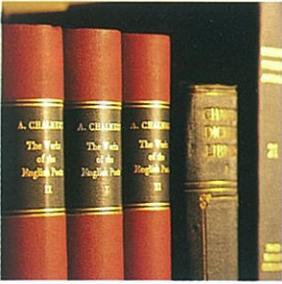
Vol.3 (Whole Number, Vol.49)

March 1997

- Diskurse um Haiku und  
Liebe bei Roland Barthes……………Motoyoshi, Mizue…( 1)
- Sur Aimé Césaire Ⅱ……………Sunano, Yukitoshi…( 23)
- Hungarian Revolt in 1956  
in view of the Radiobroadcast……………Hoshino, Haruhiko…( 57)
- About the combination of pitch accent and  
intonation on the end of sentence in Japanese……………Baba, Ryōji…( 87)
- Analysiy Japanese Language learning needs of  
the overseas undergraduates in  
Prefectural University of Kumamoto……………Umeda, Chisako…(101)
- A Study of "The Wind Blows"  
—the Turning Point in Mansfield Literature—……………Hirado, Yoshifumi…(117)
- On Meaning and "Performativity"……………Miki, Etsuzo…(127)
- On The Thought of  
*Tai-Shang Da-dao Yu-qing Jing*……………Yamada, Takashi…(180)
- The Society for the Study of Elocution,  
and Vies of Elocution……………Kobitsu, Matsuo…(198)
- On the World of *The Temple of the Golden Pavillion*  
by Yukio Mishima(2)  
—On the Narrative Structure in the Second and Third Chapter—  
……………Takehara, Takao…(228)

PREFECTURAL UNIVERSITY OF KUMAMOTO





本学部が発刊している「熊本県立大学生活科学部紀要」は大学・研究所などが定期的に出す研究報告書の類である。本学の紀要は「熊本女子大学・学術紀要」として、新学制に基づく「熊本女子大学」が発足した昭和24年度に逸早く第1巻が創刊された。種々の学問分野における論文が混在する年間に1巻1号の発行であったが、第4巻までの長きにわたり発行され、熊本女子大学における研究者の学問的な成果が広く公表されてきたところである。

しかし、本学の名称が「熊本県立大学」に改められ、文学部・生活科学部・総合管理科学部の三学部体制が確立されたのを機会に、平成6年度より紀要の見直しが行われた。各学部および外国語教育センターごとに独自の形式による紀要を発行することが決定され、本学部も待望されていた独自の紀要を持つこととなった。文学部紀要と生活科学部紀要には、いままでも重責を果たしてきた熊本女子大学・学術紀要からの継続を失うこと通巻の番号が併記されている。「生活科学部紀要」発刊の経緯・意義・趣旨などについては、生活科学部紀要第1巻（創刊号）に学部長及び編集委員長が語る述べられているのでご参照願いたい。

## 総合管理科学部

生活科学部紀要の発行は第3巻までの3冊に

雑誌「アドミニストレーション」の紹介  
みなさん、総合管理科学部から「アドミニストレーション」という雑誌が発刊されていることをご存じですか？この雑誌は、総合管理科学部の教員と学生のみならず、ただ年費をもとに、総合管理科学部の教員による研究成果を公表することを目的としています。総合管理科学部の先生方は、みなさんの気づかぬところで「鶴の機織り」のようにたばたと世界にも通用する（！）論文を作成し、公表しているのです。みなさんも、一度「アドミニストレーション」を手にとってみてはいかがですか？講義や演習等では出会えぬ先生方の「真の姿」に出会えるはずです。ちなみに、最新号の目次は以下のようになっております。

## アドミニストレーション

第4巻2号 1997年9月

### 論説

地域活性化の評価手法に関する基礎的研究  
——熊本県における実態調査を中心として——

米沢 和彦

比較のなかの政官関係論・序説

原田 久

### 研究ノート

アドミニストレーション研究のスキームについて

秋山 喜文

熊本県立大学総合管理学会

すぎないが、学部以前の紀要として多数の教員の方々から論文が寄せられるとともに、これまでの編集委員の方々にご努力により順調に発行されてきた。この紀要を通じて最新の研究成果の一端がうかがえるとともに、本学部における教育・研究活動がいかに幅広い領域にわたっているか、学内・学外に伝えている。本年発行された第3巻（平成9年3月発行）の目次に見られるように、学部の教育・研究成果の発表の場として、それぞれレベルの高い論文であり、他の研究者へ一次情報として貴重な資料を提供している。また、厳しい投稿規定もないため、必ずしも研究論文に限らず、学部にとって話題性のあるものも掲載されている。

例えは、「私たちの遺伝子を理解する…期待と懸念」は、平成7年秋、生活科学部が客員講師制度の全学講演会方式を利用し、1980年のノーベル化学賞を受賞された遺伝子工学の先駆者ポール・バーグ博士（米、スタンフォード大学）を招聘して行われた講演会の記録を掲載したものである。当日は同時通訳による講演会であったが、専門用語が理解できなかった人、同時通訳が聞きずらかった人もこの講演記録の英文あるいは和文を熟読すれば、バーグ博士がいかに専門的なことを平易にご説明され、博士が我々にご教示された点があらためて容易に理解できる。この講演会記録は、生活科学部のみならず本学の貴重な資料となるであろう。

また、「生活経営学科の歴史を閉じるに当たって」は、平成5年度をもって廃止された本年3月に最後の卒業生を送り出した生活経営学科における「生活経営とは何ぞや」と自問自答しつつ、教員と学生の緊密な触れ合いの中で展開された手作りの教育・研究について綴られたものである。生活経営学科卒業生の方々が一読くださるならば、走馬燈の如く学生時代が思い出されることでしょう。

陸では「Paper Maker」なる言葉もささやかれるように、「Publish or Perish」が良いか悪いかは別にして研究者に問われ続けている。しかし、理系の多くの領域では紀要に掲載された研究論文は、一般には研究業績として評価されないため、勢い国内・外のレフェリー付きの学会誌や学術雑誌への投稿が優先され、紀要への投稿減少が危惧される。最近では、研究業績の評価に外国雑誌に何報とカウントされる状況にもある。このような紀要軽視の傾向が、本学部の紀要発行が継続できるかどうか、編集委員にとって最大の悩みである。現に第4

巻発行に当たりその傾向が顕在化しつつある。蛇足であるが、本学部教員の方々には、今一度、紀要発行の意義等をご理解頂き、紀要へ積極的なご投稿頂けるならば幸いです。

### 熊本県立大学 生活科学部 紀要 第3巻 1997年3月

- 私たちの遺伝子を理解する…期待と懸念……………ポルバーク 1
- （訳）飯尾 雅彦
- 紫花豆のアントシアニン色素について……………井村 麗子 65
- 都市における継承世代家族の住宅および住生活の特徴、動向とその家族の論理に関する研究②……………大岡 敏昭 77
- 暑熱環境における作業衣開口状態相違が温熱生理反応に及ぼす影響……………乙益 相代 95
- ……………兼子 良子
- ……………田北智瑞子
- 社会福祉サービスの基準とサービス評価事業について……………河谷はるみ 107
- Sequential selection procedure based on extended play-the-summarize and drop-the-coin rule for selecting the best of  $k$  treatments in a finite population……………城島 邦行 135
- 全国自治体における「農村型リゾート」事業の現実に関する調査研究その①……………中島照八郎 149
- 高齢社会に対応できる「一般住宅の平面構成のあり方」……………村上 良知 177
- ……………加藤対応住宅の課題と新たな設計方法の提案
- 生活経営学科の歴史を閉じるに当たって……………石橋 敏郎 187



# VO

## 茶道部

生活科学部  
食物栄養学科3年  
茶道部平成9年度部長  
今村 鈴代

私達東立大学茶道部は、週2回部員一同稽古の下、で活動しております。現在、部員数25名で敬清寂の精神の下、練習時は和気さの中で皆一心に稽古の静わりくんでいきますが、練習が終ると和室が一転して、とても賑やかな雰囲気になります。熊本女子大学から熊本男子部員が加わり、茶道部にも谷川先生の自宅で行事、1月の初釜に参りました。先生が手ずからおいさつと共に、お茶事を楽しまし、情も味わうことができ、お節料理をいただき、お茶事を楽しまし、お茶道連盟主催の水無月茶会が催され、学生の方々と交流ができました。7月は、学校茶道合同茶会に練習にも一層熱が入ります。このお茶会により、心が生徒が集まり、幼稚園から大学まで各学校の茶道部のお客様も未熟ながら一生懸命、席を務める生徒達の間、稽古を始め、朝茶事もこの時期に行い、早朝の涼しさ、是非、御来席下さい。1年間の最後を締めくくると、学生生活最後のイベントの合同茶会です。このお茶会は、4年生にとりましては、茶会のために茶道部は、一年を通して活動し、稽古を重ねてお茶会という機会もあり、4年間で学んだ稽古の文化の1つである茶道を海外の人達に伝えることができ、更なる茶道を通じた国際交流の場に参加していきたいです。益々精進していきたいと思っております。



## 「克己」

文学部  
日本語日本文学科2年  
弓道部外務  
石原 礼子

我が弓道部の部旗には、「克己」という文字が大きく記されている。(もつとも、これを最初から正しく読む者は少なく、皆「かつみ」だとか「かつこ」だとか好き勝手に読んできた。正しくは「こつき」である。「己」に「克」つ、これが東立大学弓道部のスローガンとなっている。弓道とは、そもそも1人でするスポーツである。心静かに的に向かい、弓を引く。結果はすべて自分自身に返ってくる。少しでも心が乱れていけば、それはそのまま自らの射や矢飛びに表れてくる。「平常心」という言葉がある。どんな時でも心乱れることのない不動の精神がそれであるが、弓を引く時にこれを保つのは本当に難しい。特に試合などでは、緊張やプレッシャーに押し潰されそうになり、とても「平常心」を保つところではない、というのが実際のところである。

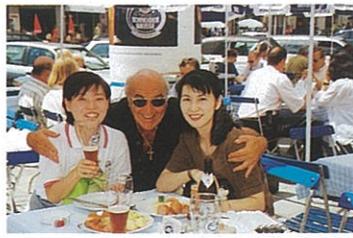
よって、私達弓道部一同は、日頃から「己に克つ」ことを目標とし、日々練習に励んでいる。そうして、日々精神を鍛え、1人1人が自らの成績を上げようと努力している。残念ながら人数が少なく、選手層も薄い。結果を出すのは容易ではないが、「克己」が東立大学弓道部のスローガンである限り、この精神を追求し、結果につなげようと頑張っている。



# ドイツ・ミュンヘンの印象

総合管理学部助教 石森久広

平成8年8月末から1年間、ドイツのミュンヘン大学法学部に客員講師 (Gastdozent) として受け入れていただいた。専門的な話は別に譲るとして、ここではドイツの社会が普段日本で暮らす者の目にどう映ったか、ドイツ滞在中の私と妻を訪ねてくれた十数名の本学ゼミ生・卒業生たちのドイツ初印象の言葉思い出しつつ、若干の紹介を試みてみたい。



★ミュンヘンといえば、ビールに自動車 (BMW)、サツカーに音楽、といったところであろうか。普段はビールをたしなまない女子学生たちも、とりわけドイツのビールのおいしさは想像をはるかに凌ぐものだったようだ。サツカーの強豪チームFCバイエルンの試合当日には街中にサポーターの雄叫びがとどろき、その一方でミュンヘン・フィルや国立歌劇場のオペラ・バレエなど、世界最高レベルの演奏会が1年中開かれていた。陽気で気さくなバイエルン気質で、上品で気高い音楽の都の顔が加わった街、それがミュンヘンであろう。



★ミュンヘンの街を歩くと、まず車椅子の人や乳母車を押す人が非常に多いという印象を受ける。ドイツの低床バスは日本でもよく紹介されるが、ミュンヘンでは、ほぼすべてのバスが低床だ。歩道 (自動車道は別にイレイン) に段差がないのはもちろん、電車や地下鉄も車椅子で利用できる。



きる。仮にエレベーターが故障していても、周りのドイツ人は間髪いれず手を貸す。その場で余裕のあるものが力を貸すのは、至極当然のことのようだ。乳母車をどこでも最優先だし、女性が重い荷物を運ぶことを周りの男性は決して許さない。気の利かない私は、よく見知らぬ女性から「男性たるもの」と諭されたものだ。

★ドイツ人はことのほか家族で過ごす時間を大切にしている。平日は4時ごろには退社し家に向かう。上司が残業を命ずることは法律で禁止されている。同僚とちよつと一杯というつもりもない。それだと主婦が大変だと思うが、夕食は主婦に負担をかけないよう、火を使わないもので済ませるのが伝統だ。金曜は昼まで (週休3日制導入の議論も本格化)、土・日は完全に休日、家族一緒に過ごす。子供も学校は午前中だけ (夏は28度以上になると授業を打ち切る始末)。年6週間以上の休暇も世界各地に家族で出掛ける。土地は安いし教育費も大学院まですべて無料。働くのは主に休暇の旅行費用を得るためだ。それで優雅に暮らしているドイツ人を見ると、働かざるを得ない日本人がとてもしらしく感じられる。

★ドイツはまた環境にやさしい国としても知られる。街のあちこちにリサイクルボックスが並んでおり、なかには古着用のものもある。スーパーに行くには手提げ袋が必要だし、高級デパートでも包装はしない。集会所では紙コップの使用が禁止され、コップは各自持参する。捨てずに済むよう、消費せずに済むよう、至る所で知恵が絞られている。車はとても便利だが (路上駐車OK、渋滞は稀れ、

高速道路は速度無制限で無料、ガソリンも安い) 環境のため公共交通機関の利用が誘導されている。切符は目的地的ゾーンまで1枚自動販売機で買えば、バスでも地下鉄でもあとは何をどう乗り継ごうが自由、改札も料金箱も何もないので、たまに出くわす (私は1年で2度) 検札時以外はそれの切符を見せる必要すらない。2人1組なら大幅割引だし、1週間分程度の値段で1ヵ月乗り放題の切符もある。10分と待たないダイヤが組まれ、深夜便は朝まである。これなら車離れが進むのも当然だろう。

★最後に、ドイツを訪れてくれた学生たちとともにまじめをするとすれば、さしあたり「気ままだにゆつたりと時間が流れ、精神的な豊かさが目指されるドイツ」、それに対し「何事も一生懸命張り、物質的な豊かさが目指される日本」とでもなるか。もちろんドイツの影の部分も多くある。それにもかかわらずドイツは、私たちが学ぶべきことや思い出すべきことをなお持ち合わせているように思われる。日本が好きであるがゆえに切にそう感じている。



## 随筆

# 海外留学を終えて

文学部教授 梅林誠爾

一年間の留学ともなれば、出国は一人帰国は二人という人もいれば、出国は二人、帰国は一人という人も出るだろう。二人で出かける三人で帰ってくることもある。私の場合は、二番目にはば該当するが、留学先で壮絶なドラマを演じたわけではなからぬ。連れ合いが「私、帰って行かぬ」とか言っていて、アメリカと深くつきあつたわけではないが、日本と違う生活を味わうことができた。その一つは、多民族、多文化社会の持つ楽しさと緊張感だ。ワシントンDC地区には、多くの国の様々の民族の人が、市民として、長期滞在者や旅行者として住んでいる。頻りに催されるお祭りやパレードは、それぞれの民族の文化や伝統を自覚し、交流する機会になっている。赤や黄色が目立つ旧正月のNew Year Paradeは、チャイナタウンの祭り。白人やアフリカ系の人たちも中国人と一緒に龍をかついでいる。St. Patrick's Dayのパレードは、アイルランドの人たちの祭り。バグパイプの楽隊やShine Feetの人たちの行列、それを見物する沿道にも緑色が目立つ。白とピンクが基調の4月の桜祭りでは、日系が元気になる。ホワイトハウスに近づくので、うどん、焼き鳥、寿司におにぎりのテントを並べて楽しんでいた。スミソニアンでは、絵画や工芸品や科学技術の展示の他に、様々な国の音楽や映画の紹介もやっていた。カンボジアの宮廷音楽やベルギーの音楽を聞き、また、溝口健二監督の1930年代から50年代の映画 (山田五十鈴や田中絹代、市川雷蔵などが主演) を見て、懐か

しい日本の風景も楽しむことができた。しかし、明らかに緊張がある。DCの南東地区には主としてアフリカ系の人たちが多く住み、北西地区には白人が多い。この住み分けが、地域経済の違い、犯罪の発生率の違いと重なり、街の様子の違いともなる。教育の問題、雇用や老人問題など、日本同様の話しを聞くが、違うのは、どの問題にも人種や民族が関係していることだ。新任のアフリカ系の若い哲学者、コーリー・ワシントンとともに、私も新参者ということで、指導教授のデヴィット先生のお宅に招かれた。その席でコーリーは、大学にも差別があると指摘した。私に向かつて、東洋人はどう思うとさねてきた。東洋人のお前も差別されてきていると感じることがあるだろうということだ。私は、肯定したが、情けないことにいつもの悪い癖で、話を横にずらしてしまつた。日本にも民族や人種の問題がないわけではないという話題に。差別や緊張を取り除くために民族や人種の違いを越えるのではなく、むしろ違いのある文化、生活様式、思想をはつきりと主張し、その違いを認めながら協力しあう努力が、アメリカ社会では続けられているようだ。また、日本人の感覚では、人種や民族の問題は、国家の外側にあるように見える。アメリカでは、人種や民族で異なる文化、異なる価値観、異なる生活様式が日常の生活の中にあつて、そのはるか外側に合衆国という国家があるようだ。

# 学生時代の思い出と同窓会

昭和二十二年に熊本県立女子専門学校が開学され、第一回の卒業生八十八人で昭和二十五年に発会した同窓会でしたが、女専が昇格して熊本女子大学となり、昭和二十八年三月に「熊本女子大学同窓会」として再発足、五十年を経ましてこの四月には初めて男子の卒業生を迎え入れることになりましたが、その方達の活躍と、同窓会活動も大いに活気づくことと期待している所でございます。

私共が入学した当時の学生生活は、今の学生さん方には想像もつかないだろうと思います。食糧も、衣類も、電気もなく交通手段は電車がバスと云う時でした。保健科(後の生活科)に入ったのですがその実習時の一つの例をあげますと、思うようですがその実習時でできませんでしたが、ケーキ作りでは、デコレーションを生クリームやバターで代り唐辛子を使つたことも有りましたが、小麦粉に重曹(重炭酸ソーダー)を加えて膨らして見ました。また小麦粉と重曹の割合をレポートにして提出した事もありましたが、生クリームやベーキングパウダーがたやすく入手できる現在では想像もできないような実習でした。勿論調理用具は少なく、オープンも有りませんでした。

そのような時代に設立された女専でしたが設立と同時に文部省から大学改革案が発表され、女専も大学昇格がまかりましたので、大学設立のための資金づくりでバザーを開いたり、寄附金をつうり、またアルバイトをして資金にしたり、学生も大学昇格に意欲的に活動をしたものです。(女子大学として昭和二十四年四月に発足)

また学生時代にはよく勉強もしました。卒業時にすぐに職業につけて社会の役に立つようと、資格取得のための時間割りが組まれていましたし、中学校・高等学校の家庭科教師の資格と、栄養士の資格がとれ、更に農村の主婦達を指導する生活改良普及員の受験資格を得ましたので、殆どの同級生が受験して全員合格と云う快挙でした。

当時の娯楽と云えばテレビやゲームはない時ですが、映画を見たり、ダンスに行ったりで勉強にも遊びにも一生懸命でしたが、これらのことが昨日のことにように思い出されます。

紫苑会は旧学舎の敷地内に有って、学生の方たちのクラブ活動の拠所であった同窓会館を移転することができなくて、現在は大学内の一室を使わせて頂いておりますが、将来は会員の交流をはかり、また国際交流を果たせるような会館建設ができるように願っております。

大学の中央部池のそばにある乙女の像「祝」は新大建設時に紫苑会が大学に寄贈したのですが、学生の方たちが大きな夢を持ち、遠く将来を見つめている姿は、地面に足をしっかりとおりて活動する今後のすすむべき方向に示唆を与えているようにも思います。紫苑会の今後の活動によりよく御協力を賜りますようお願い致します。

## message for you

大学生の魅力って何だろう、と考えたことがたびたびある。世間では、現在の大学生の評価がどうなっているのかはわからないが、私自身は大学生という一時期を過ごせてよかったと思っている。例えば、高校までとは違った幅広い学問に接し学んだこと、自分の目標であった中学、高校の教員免許状を取得できたこと、学内における自治会、サークル活動に参加したこと、自分の思い通りにできる時間がたくさんあったことなど、メリツトを挙げればきりが無い。でも私が何よりもよかったと思うことは、知的好奇心を刺激してくれた人、いろいろな個性の持ち主に出会えたことである。

私は、人との出会いや関わりを大切にしているつもりだ。自分が生きていくための栄養素みたいなものである。人との関わりから得るものは、だいたい自分が持つていないものなのでかなりポイントが高い。例えば、初対面時にはあまりいい印象を受けなかった人が、実は多芸多趣味な人であったり、興味深い活動をしている人であったり、斬新な発想ができる人であったりする。私自身、こういう事に遭遇することが何度あった。そういう経験をすると、自分の固定概念がほんの少しほぐれていい刺激を受けた。一つの尺度で見ると、様々な角度から物事を見ると、前者に比べて数倍は発見があるという楽しさを人との関わりから教わったような気がする。

先日後輩と話をしていた時、「大学にきてよかったこと」が話題に登った。後輩が挙げた項目に、「腹を割って、物事を深く話すことができること」があった。私はふと、お世話になった高校の先生が「学生時代の友達は何にもかえ難い大切なものだ」とおっしゃったのを思い出して、後輩の言葉と先生の言葉が妙にシンクロしてしまい、「確かにそうだな」と納得してしまった。先生いわく、人との関わりは別に社会に出たって経験できるけれども、学生時代のそれとは趣が異なるそうである。やっぱり、腹を割って話せる友達存在は有り難い。

大学で何をやるか、それは知識だけではないように私は思う。学生時代は人生のプロセスなのだから、いろいろなことに自発的に取り組んで欲しい。それにはまず、様々な人との関わり合いを大切に、と私は言いたい。私自身もこのことをいつも心に止めて起きたいと思う。

## 「人との関わりを大切に」

## 平成10年4月、熊本県立大学大学院 「アドミニストレーション研究科」を 全国初開設

### アドミニストレーション 研究科とは

#### 1. 新しい学問分野を切り開く研 究科

熊本県立大学大学院は、これまで平成5年4月に開設した文学研究科のみでしたが、平成10年4月からは総合管理学部を基礎とするアドミニストレーション研究科が加わり、2つの研究科で構成されることになりました。

アドミニストレーション研究科は、総合管理学部の第1回生の卒業に合わせ開設するため、準備をすすめてきました。平成9年6月に文部大臣に設置認可申請書を提出し、平成9年12月19日に認可がおりました。

アドミニストレーション研究科は、これまでアドミニストレーションの教育・研究に関わってきた

#### 研究科

行政学、経営学はもちろん、政治学、法律学、経済学、財政学、会計学、社会学などの異なる学問領域が協力し、アドミニストレーションに関する新しい学問分野を切り開く研究科です。欧米の大学では、めずらしくありませんが、我が国では初めての研究科です。

2. 公共行政（パブリック・アドミニストレーション）と企業経営（ビジネス・アドミニストレーション）を総合してアドミニストレーションを学ぶ

#### 研究科

アドミニストレーション研究科の基礎となる学部である総合管理学部は、平成6年4月、熊本県立大学に全国で初めて開設されました。「総合管理学部」の研究対象とするのは「アドミニストレーション」で、公共行政（パブリック・アドミニストレーション）と企業経営（ビジネス・アドミニストレ

ーション）を包括・総合する概念です。両者は、アドミニス

トレーションという言葉が単に通しているだけでなく、社会現象の本質として機能しているアドミニストレーションというもので共通しています。大学院では、学部での教育を基礎に、アドミニストレーションに関する教育研究を深めます。

3. 地域社会の期待に応える研究科

新しい研究科は、「地域に開かれた大学」という本学の理念を実現するため、地域社会の市民となる人材を育成し、地域の社会と文化の形成に貢献する実践的な研究を対象とします。また、地域の行政や企業活動もその研究対象としていきます。

4. 昼夜開講制を実施、夜間授業のみで修士学位取得可能

プロフェッショナルを目指す人のための大学院  
アドミニストレーション研究科の教育・研究は、実学的要素の強い学問であり、行政や民間企業で活躍する社会人にとって有益な学問です。

●昼夜開講制を実施し、夜（午後6時～9時10分）と土曜日だけの受講と修士論文の作成（2年間）で修士の学位が取得可能です。

●特別演習（ゼミ）は、1・2年及び昼夜合同で実施し、異なった知識・経験を持つ学部出身生と社会人学生及び外国人留学生が論議し、研究する場とします。

●人材養成の目標  
★高度の学際的知識を修得した専門的職業人の養成

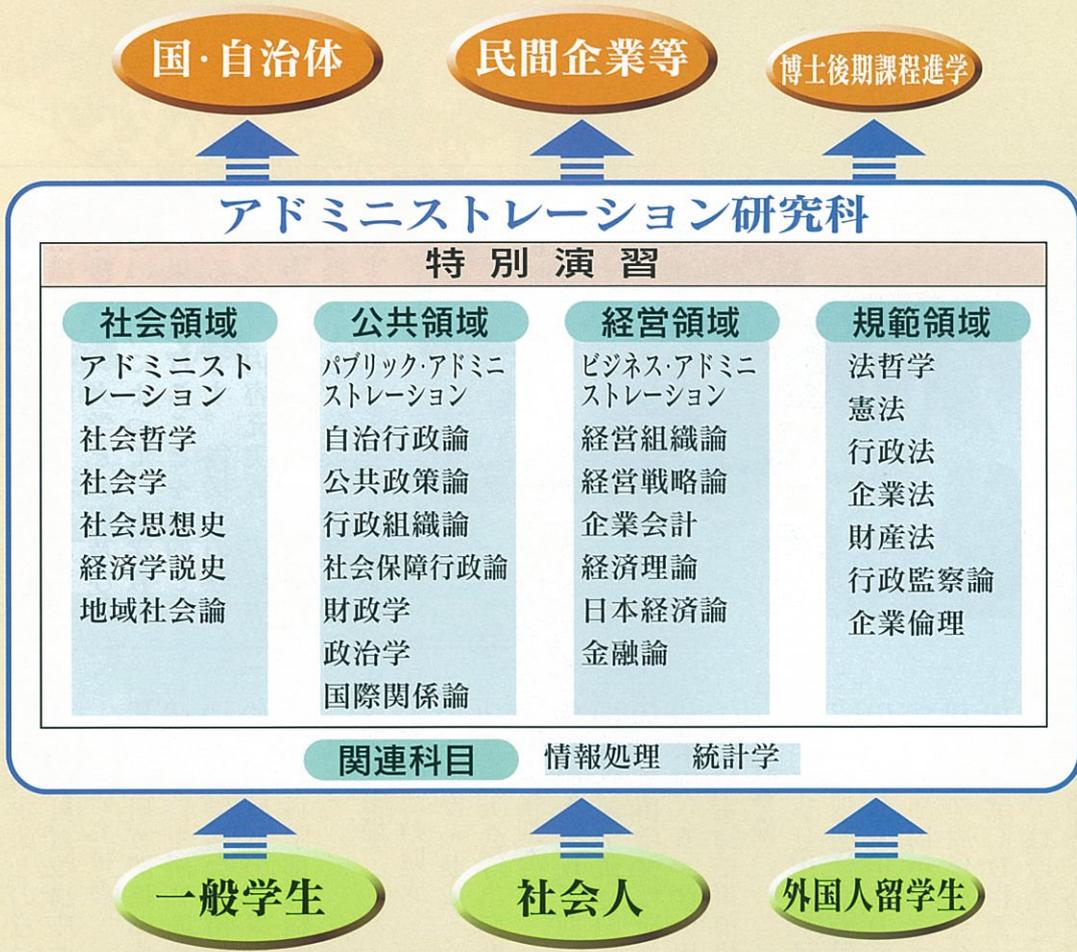
●行政（パブリック・アドミニストレーション）に関する高度な専門知識・能力及び「哲学的根本思想と経営マインドを併せ持つ行政マン

●経営（ビジネス・アドミニストレーション）に関する高度な専門知識・能力を持ち、企業の公共性や社会的責任を自覚するビジネスマン

★学術研究者の養成

●我が国初のアドミニストレーション研究科として未耕の分野に今後貢献する学術研究者

# アドミニストレーション研究科の概念図



## アドミニストレーション研究科履修モデル

学年	学期	授業科目の履修		研究指導の方法 (特別演習及び個別指導)
		一般学生	社会人学生	
1年	前期	アドミニストレーション特殊講義 ほか3科目履修(8単位)	アドミニストレーション特殊講義 パブリック・アドミニストレーション特殊講義 ビジネス・アドミニストレーション特殊講義 ほか2科目履修(10単位)	研究指導教員決定 特別演習で小テーマ研究
	後期	パブリック・アドミニストレーション特殊講義 ビジネス・アドミニストレーション特殊講義 ほか2科目履修(8単位)	3科目履修(6単位)	特別演習で小テーマ研究 研究題目決定
2年	前期	2科目履修(4単位)	2科目履修(4単位)	論文作成開始 論文作成のための資料収集 及び実務との交流
	後期	2科目履修(4単位)	2科目履修(4単位)	論文中間発表 論文発表 論文提出
合計		(32単位) * 修了要件は30単位以上	(32単位) * 修了要件は30単位以上	
人材養成の目標別履修モデル				
		各研究領域から2科目ずつ履修する。さらに、公共部門志望者は、公共領域から3科目、民間企業志望者は、経営領域から3科目履修する。	各研究領域から2科目ずつ履修する。さらに、公共部門従事者は、公共領域から2科目、民間企業従事者は、経営領域から2科目履修する。	

熊本県立大学後援会（以下「後援会」といいます。）とは、熊本県立大学（以下「大学」といいます。）に在学する学生の父母やこれに準ずる者を会員として組織されている大学の教育事業を後援し、大学と家庭及び社会との協力によつて、大学教育の成果を挙げることを目的としている団体です。後援会の経費は、会費、内容充実費、実験実習費等で賄われています。

後援会では、平成9年度に以下のような事業を行っています。

■サークル活動への助成も後援会事業の一つです。頑張っている学生を応援しています。



- 1 就職対策
    - (1) 就職ガイダンス
    - (2) 業界研究会
    - (3) O G 説明会
    - (4) 県内企業との意見交換会
    - (5) 公務員対策講座の開設
  - 2 教育研究推進
    - (1) 教育研究関係助成
    - (2) 共同自主研究助成
    - (3) 国外学術会議出席への助成
    - (4) 教育研究の成果発表
    - (5) 生活科学部食物栄養学科実験実習費助成
  - 3 図書整備
  - 4 課外活動助成
    - (1) サークル助成
  - 5 全国大会等出場助成
    - (1) 祥明大学短期学生研修団の受入
    - (2) 国際化推進費
    - (3) 海外語学研修助成
    - (4) 海外留学又は研修助成
    - (5) 米国・モンタナ州立大学との学生交流協定締結事前協議
  - 6 施設整備
  - 7 学生貸与用パソコンのリース
    - (1) 開学50周年記念事業
    - (2) 開学50周年誌の発行
    - (3) 開学50周年記念式典
    - (4) 開学50周年祝賀会
    - (5) 大学歌CD作製
- 後援会では今後とも、大学教育の成果が向上するよう大学当局とも連携し、よりよい事業を行ってまいりますので、会員の皆様の御理解、御協力を賜りますようお願いいたします。

## お知らせ

### 保護者の皆さまへ

例年、5月末か6月初めの土曜日の午後、後援会の総会を開催しており、本年もその予定になっております。総会終了後には、学内の施設・設備のご案内も実施しています。

学内を見学される機会もあまりないと思いますので、ぜひご出席ください。なお、詳しくは、後日案内状を送付いたします。



### 学生の皆様へ

後援会では、図書館と就職資料室に学生用のコピー機を設置し、専用のコピーカード（50度数・500円）も販売しております。このコピーカードは使用度数を磁気で管理していますので、クレジットカードなどと重ねたりすると使用できなくなることがありますのでご注意ください。もし使用できなくなっても再設定できますので、気軽に後援会まで申し出てください。

◆後援会の場所をご存知でしょうか？

後援会は、管理棟2階（学生課・教務課の上）総務企画課内にあります！  
ご用の際はお気軽にお越しください。



## 編集後記

熊本県立大学学報「春秋彩」も、平成6年度の創刊以来10号を数えます。これまで、学生及び保護者のみなさんに、本学における大学改革の内容や現状について、また様々な学内ニュースについてお伝えしてきました。今回、より積極的に学外に向けても情報を発信する広報誌となることを目標に、誌面刷新を行いました。全ページカラーとし、ボリュームも約6倍に増えています。わかりやすさを求め、また視覚的にも楽しんでいただけるようにと写真も多く掲載し

てみました。

学生及び保護者のみなさんには、学内ニュースと併せて本学の教育研究内容を再確認していただき、県民の皆様には、本学の普段の様子をお伝えできればと考えております。

学報としては第10号ですが、試行錯誤の中での誌面刷新後第1号です。まだまだ不十分な点も多くあるとは思いますが、今後とも、少しでも前号よりよいものを作ることを心がけて編集していきたいと思っております。次号は本年夏頃発行の予定です。

## ご意見 感想募集

熊本県立大学学報「春秋彩」第10号はいかがでしたか。本誌についてのご意見、ご感想がございましたら、次のところまでお寄せください。

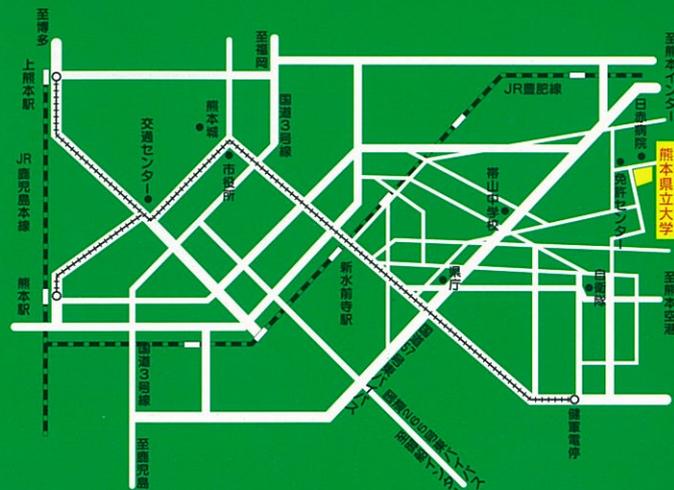
みなさまからのお声を参考に、今後の学報編集に取り組みたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

〒862-8502（個別番号：本学専用の郵便番号ですので住所は不要です。）

熊本市月出3-1-100 熊本県立大学 事務局総務企画課内「春秋彩」担当行

FAX:096-384-6765 E-Mail:gakuho@pu-kumamoto.ac.jp

## 位置・アクセス





熊本県立大学

PREFECTURAL  
UNIVERSITY  
OF KUMAMOTO



発行：熊本県立大学  
〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号  
TEL.096(383)2929 (代) FAX.096(384)6765